

月報 シオン山

2023年1月8日発行 (No388)

日本バプテストシオン山教会

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々
新たにされて、真の知識に達するのです。

(コロサイの信徒への手紙二 3章10節)

「恐れることはない」

牧師 伊藤光雄

「わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達
は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。
わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの
心に注がれているからです。」

—ローマの信徒への手紙5章3b～5節—

リスク（危険）という言葉があります。みなさんはこれまで何らか
の形でこの言葉を使ったことがあるかと思います。リスクという言葉

の定義について「ビジネスマン、生涯の過ごし方」という本の中で生活スタイルであれ、自分の人格であれ、人間関係であれ、何かが改善されて人生が豊かになることを期待し、危険を覚悟で行動に踏み切ることとあります。またリスクは、人生の基本要素である。リスクを冒さなければ家を離れることも、結婚することも、子どもを育てることも、事業を起こすこともできないともあります。

つまりどんな小さなことでも期待して、前向きに取り組み、行動に移そうとするならば、そこには必ずリスクが生じてくるということです。しかしそのリスクを恐れていたならば何もできないのです。ですからリスクのことを日本流で言うならば「一か八かやってみる」という言い方になるかもしれません。

さらにこの本には人が生きていくためには、ある程度のリスクが伴う。しかしその中で大事なことは、どんな厳しいリスクがあろうと勝ち抜こうとする決意と粘り強さがあるかないかということで、それが人生に活気を与えているのです。

作家の三浦綾子さんが、生前、小さな壺の中で一匹の虫が懸命にはい上がろうとしているのを見ていました。そして出口にもう少しのところまで虫はツルンと壺の底に落ちてしまったのです。しかし再びチャレンジしたのですが、また壺の底に落ちてしまい、結果として虫は三度チャレンジしたのです。

三浦綾子さんはそんな虫の様子をじっと見ながら心の中で「虫さん、出られっこないわよ。あきらめなさい。」と思ったのです。しかしそのとき、自分の心に私はどうだろうか、一匹の小さな虫が何度も、何度もはい上がろうと挑戦している。それに比べて私は物事をすぐにあきらめてしまうことがないかという問いかけを感じたのです。

上掲の聖書は、キリスト教会では良く読まれる聖書の言葉の一つですが、この手紙を書き送ったパウロは、神は最善の方法をもって私たちを導いてくださり、そのリスクをプラスに変えてくださり、希望を

生み出す歩みへと導かれることを確信してこのように言い、自分の生涯を全うしたのです。

主イエス・キリストは「あなたがたには世で苦難がある。」（ヨハネによる福音書 16 章 33 節）と言われました。現実決して甘くはありません。人生には苦難が伴うということを主イエス・キリストご自身も受け止めています。しかし主イエス・キリストは私たちに希望を生み出す人生を、世に勝つ人生を備えてくださったのです。

主なる神から与えられた私たちの命は、そんなやわなものではないのです。

パウロはコリントの町の教会の人たちに「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」（コリント信徒への手紙一 10 章 13 節）と言いました。パウロのこの確信は主イエス・キリストを信じる信仰から与えられたものです。

私たちも「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」という確信をもって自分の生涯を主イエス・キリストに託していきたいと思えます。